

アジア選手権開催の構想

愛知県には WOC のトレインとしてミドルとロングの予選をおこなった菅沼・守義という地域がある。この地は将来の大きな大会のために WOC 以降開放をしないでいたトレインである。このトレインをこの機会に提供することになった。

しかし、運営の負担から 2 種目だけに限定して行なうことにした。早速新城市とも相談し、新城市作手地域のトレインの特質からスプリントは不向きであるので、後半の日程を希望する形で JOA に立候補を申し出た。

思えば、1992 年に APOC を静岡県と連携して、野外教育センターの周辺で開催した。このときは前半の個人戦を静岡県富士市で開催し、後半のリレーを愛知で担当した。今回もトレイン王国静岡とペアで開催するものと思っていたが、静岡は事情で立候補できなかった。JOA 専務理事の村越さんは愛知を中心に開催できる県協会はないかと熱心に交渉を重ねられ、南信地域が当初候補に挙がったが不調に終わり、岐阜県協会さんの御理解により東濃地域に落ち着いた。

时期的には参加者にとっても、運営者にとっても長期にわたり休みのとれる時期が望ましいが、500m もの高地であり、雪の心配や、主に参加者の宿となる愛知県野外教育センターなどの宿の確保からお盆時期は望ましくないと判断した。残るは 5 月はじめのゴールデンウィークとなり、偶然にも 1992 年と同じ時期になった。高速道路の渋滞がやや心配であったが、総合的にベストであると思った。

一方 2009 年度の全日本大会の運営担当が北陸東海ブロックになっていたため、JOA 理事として東海 4 県で受けるなら最適地はどこか、北陸ではどうかと交渉を重ねたが、なかなか運営能力やトレインの質など点から受け手がなく、2010 年開催の関東甲信越ブロックと入れ替えではどうかという話を JOA の船橋理事にお話をしたこともあった。しかし 3 月下旬の全日本大会と 5 月初旬のアジア選手権はあまりにも時期が近く、参加者とりわけ全日本選手権者を目指す方にとっては好ましいことではないと思われた。また、日本の

オリエンテーリング事情を考へても参加者の分散は望ましくなかった。ということで愛知県協会の加盟クラブには全日本大会を併設しても負担は一切増えないということを約束して、アジア選手権ロング競技を全日本大会と兼ねることになった。

運営体制

2008 年 11 月に JOA の久保副会長や村越専務理事らと新城市の穂積市長や中津川市を訪問し、大会の意義などを説明し、開催を受け入れていただいた。とりわけ、例年つつじまつりの中でオリエンテーリング大会を開催されている根の上高原観光保勝協会さんには心強い応援の声をいただいた。

2009 年に入り、愛知県協会では運営の組織作りが開始した。運営人員の確保を心配する声もあったが、アジアで開催されたときの APOC やソウルでのアジア選手権を見てきて、ジュニア層には香港や中国の同年代と戦って、大いに刺激と感動を受けて欲しいとの思いから特に若いオリエンティアには参加に回ってくれることをクラブにお願いした。

OLC ルーパーは愛知県オリエンテーリング協会に加盟するクラブであるが、例年根の上高原でオリエンテーリング大会を開催している関係上、同会場で開催するスプリント運営に集中していただくことで、新城地域での運営から外れていただき、残り 6 つのクラブと岡崎 OL 協会で開催を行なうことにした。それでもこの運営可能な 40 名は十分確保できると見込めた。

あとは収支の問題である。世界選手権 2005 では多くのオリエンテーリング関係から財政面でも支援をしていただいたにも関わらず、かなりの赤字をだしてしまい、御迷惑をおかけした。アジア選手権 2010 で、これは絶対すまい。できればまだ残っている世界選手権 2005 の赤字を少しでも埋めたいと考え、事務局は JOA に置き、運営に集中させていただいた。

運営組織

運営組織は 2009 年中ごろの運営体制から若干変わったが、競技運営を担当する岡野さん、駐車場などを競技に関わらない部分を担当する松橋さん、会計を担当する土屋さん、コースは安

齋さん、地図は小野が競技責任者と兼務することにした。コースについてはロング（全日本）を椋山女学園 OG の疋田さん、リレーを名古屋大学 OB の樽見さんが担当し、安齋さんはアドバイスとフォローという形で進められ、地形を活かしたコースが生まれ参加者から高い評価をいただいた。

地図はもともと質のよいものがあり、予想どおり、植生など経時変化や間伐のための作業道路の追加など若干の手直しで済んだ。

競技運営については寺嶋さんのリードやコントローラーの船橋さん田代さんのアドバイスにより適切に進められたと感じている。フィニッシュについてはもう少しやりがいのある仕事をやらせたかったと思う一方、IT チームの迅速な対応にも感服した。

25 年ぶりという好天に恵まれ、ほとんどの参加者がフィニッシュ回りに陣取り大会が盛り上がった。新城市や地元の方々をはじめ御協力をいただいた多くの方々に感謝いたします。

(小野盛光)



閉会式で挨拶をする新城市今泉教育部長